

台湾の印象について

公益財団法人交流協会高雄事務所次長 山口 幸文

6月22日付けで、公益財団法人交流協会高雄事務所次長に着任いたしました、山口幸文です。前任の菅原忠次長同様、よろしく願いいたします。

高雄への赴任が決まった際の挨拶回りで、小職の歴代の先輩方々や経済産業省で台湾との業務を担当していた関係者の方々から、「高雄は、良いところだよ」、「高雄は活気があふれていて、人情味があって、楽しいところだよ」と皆さん口々に、高雄の良いところだけを言って、非常に羨ましがられました。

私自身、これまで台湾との関わりを持った機会がありませんでしたので、なぜ、羨ましく思われるのか、わかりませんでした。

数少ない経験では、エジプトに駐在していた時や、その後、中東やアフリカ諸国を担当していた時に、現地で台湾の方々とお会いする機会がありました。お会いした際に、台湾の方々から親しみを感じるとともに、常に前向きで活気あふれる感じを、受けておりました。こういう方々と生活していくことかなと思ったり、昨年の中日本大震災の際に、どこよりも早く、どこよりも多額の義捐金を頂いた、親日的であり、人情味のある方々と、生活していくことかなと、勝手に思いながら赴任の途につきました。

高雄に赴任して一週間、前任者との引継ぎのために、関係機関等への挨拶回りでしたが、各訪問先の方々から、流暢な日本語で、親しく話していただき、最後に必ず、「友達だから・・・」と言う言葉が返ってきまして、初めて会った人になかなか「友達だから・・・」と言えない自分と、東日本大震災の際に、「日本の友達のために・・・」と多額の支援をして頂いた台湾の方々の思いを感じ

て、何か体の中で感じるものがありましたし、これを機に、すっかり台湾ファンになってしまいました。

これは、私だけでなく、台湾を訪れる日本人の多くの方々が感じて、お帰りになるのではないかと思います。

私が着任してから4ヶ月が経ちますが、この期間に、地方自治体関係者、地方議会関係者、学校関係者、企業関係者等の方々が、毎週のように当事務所を訪れて来ますが、皆さん口々に「高雄は良いところだ」「台湾の方々は人情味がある」等言われてお帰りになられます。8月にお越しの大阪府堺市議訪問団の大毛団長からお手紙で、「台湾の方々の日本に対する思いや歴史を考えると、今後増々、更なる交流を深めていくことを感じました・・・」と台湾の方々への思いが書かれていました。

企業の方々も国内の円高によるコスト回避やグローバル化のために、台湾を訪れる企業の方々が多々おります。8月に台湾企業との業務提携を調査に来られた中堅企業の方でしたが、「台湾の方々の親切心や真剣さに、高雄に合弁会社を作る方向になりましたので、お話を・・・」と事務所に来られました。私より、高雄市の制度等についてご説明させていただきました。それから、1か月過ぎた9月20日に、高雄日本人会法人部会の集まりがありまして、「山口さん、会社を高雄に作りました。台湾の方々の人情味や真剣さにより、1か月弱で会社の立ち上げまでに至りました。いろいろとご協力ありがとうございました。」と声をかけられ、台湾の方々への好印象を再確認させていただきました。

私の前任の菅原次長は帰任時に、年に一回位は、

プライベートで台湾に行きたいと話しておりました。1997年から99年まで次長でした大先輩のYさんは、帰任時に当時の台湾でのお世話になった方々との約束で、毎年1回、必ず高雄に来るので、その時に同窓会のように皆さんと必ずお会いしましょうと言って帰任され、それから12年間、毎年欠かさず高雄を訪れ、今年も9月に一週間ほど滞在され、当時の関係者と旧交を温めていまして、私も同窓会？に参加しましたが、とてもうらやましく思いました。

高雄に赴任してまだ4ヶ月ですが、台湾につい

て、毎日、新たな発見と出会いの日々ですが、こうした台湾の方々の日本に対する思いが、現在のような良好な日台関係を支えているとの認識の下、日台交流の促進に微力ながら、尽力していく所存ですので、これからもよろしく願いいたします。

そして、まだまだ先のことですが、Y先輩のように、毎年、高雄を訪れ、当時の関係者と同窓会のようなものを開いて貰えるような関係を作っていければと思います。